

【別添2】（様式例1）

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立大垣北高等学校

学校番号

32

1 学校教育目標	人間尊重を基調とし、智・徳・体の調和のとれたたくましく豊かな人間性を育み、高い志とグローバルな視野をもって人類・社会に貢献できる有能な人材を育成する。そのため、“誠実・友愛・努力”を本校の生活信条とし、その具現に努める。
2 現状の分析	○生徒、保護者ともに教員の授業に対する信頼が厚い。 ○新型コロナウイルス感染症防止策およびコロナ後を見据えた教育環境の整備。 ▲グローバル人材に必要な資質、能力を育成するための総合的な探究の時間のさらなる工夫。 ▲教職員の働き方についてのさらなる見直し。
3 学校の抱える課題	・時間外勤務が月45時間を超える超過勤務職員の存在。（学校経営） ・生徒の主体的な学習態度の育成と新学習指導要領に基づく観点別評価の準備。（学習指導） ・進路意識の醸成に繋がるキャリア教育の充実。（進路指導） ・危機管理マニュアルを遵守した初期始動と組織的な対応の徹底。（生徒指導）
4 今年度の具体的な重点目標	◇働き方改革を推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の適切な対応策を講じる。 ◇オンライン学習支援等の取組を通して、生徒の主体的学習態度と教員のICT能力を培う。 ◇キャリア教育を通して、高い志と向上心を育成し、個々の生徒の進路実現を図る。 ◇心身共に健全で品格のある生徒の育成を図るために、生徒にとって安心安全な環境を整備する。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学校経営	①勤務時間の弾力的な運用の積極的な活用	①教員の時間外勤務は、月45時間、年間360時間以内	①勤務時間のスライド、週休日の振替、4週間単位の変形労働時間制を積極的に活用できた。	B	○スライド勤務や勤務の割振を活用する職員が増加した。 ○超過勤務の平均時間が昨年度比で減少した。 ○19時の退勤時刻と10分早帰りを意識する職員が増加した。 ○1か月の時間外勤務が45時間を超える職員を根絶できなかった。 ○1月末現在、感染症クラスターが発生していない。	A B C D
	②ICT機器を使った業務の簡素化		②インフォメーション、Teams等の標準的活用により、業務の時間を短縮することができた。	A		
	③部活動や補習の見直し		③本年度は、土曜講座の実施を年間を通じて見合わせた。	A		
	④最終退校時刻の周知、徹底		④ほとんどの教員が19時までに退勤できるようになった。	A		
	⑤勤次郎の正確な打刻		⑤「勤次郎」による正確な打刻により、時間外勤務の内容を分析することができた。	A		
	⑥健康観察や消毒、換気の励行などの徹底	②感染症クラスターを発生させない。	⑥全職員の協力のもと、感染防止対策を推進することができた。	A		
	⑦密になる行事の大幅な見直し		⑦行事による感染を防ぐことができた。	A		

学習指導	① 1人1台タブレットを活用して、生徒の主体的学習態度と教員のICT能力を培い、教材や指導法の改善を図る。	①ICT機器を効果的に用いた教材開発や指導法の改善により、生徒の深い学びを実現する。	①全生徒へのタブレットが配付され、授業等で有効に活用する環境を整えることができた。 ②タブレットの使用ルールを策定し、スムーズに運用することができた。	A	○オンライン学習や自動採点システムの導入において県下で先頭に立ち、多くの学校の範となった。 ○多くの教員がMetaMojiに関心を持ち、実際の授業で効果的な活用に挑戦した。 ○観点別評価の導入に向け準備を進めることができた。 ▲ICT機器の活用によって生徒の学力が向上しているかの検証が必要である。	Ⓐ B C D
	②学習指導要領の改訂に合わせて導入される観点別評価について、評価方法や比率を研究し、令和4年度に向けた準備を行う。	②観点別評価について、在校生の成績でシミュレーションを行い、スムーズな導入に努める。	①令和4年度から実施する観点別評価の導入に向けて、本年度の1年生でシミュレーションを行い、準備を整えることができた。 ②令和7年度大学入学共通テストでの教科情報の出題について、情報収集することができた。	A		
進路指導	①「進路のしおり」の活用や、進学講演会・進学ガイダンス・Teams等を活用しての様々な進路情報提供を通して、生徒一人一人が自己の進路意識を醸成する。	①「進路のしおり(キャリアパスポート)」等を活用しての情報提供を通して、進路意識の醸成に繋げるとともに、学校推薦型選抜や総合型選抜にも効果的に活用する。	①「進路のしおり」を活用し、「学期の計画と振り返り」「学校行事について」「卒業に向けて」といったページに記録を残すことができた。 ②「進路のしおり」や様々な進路情報を進路講演会・各種ガイダンス・学年集会等で紹介し、進路意識の醸成に繋げることができた。	A	○「進路のしおり」をLHR等で活用することができた。 ○コロナ禍で夏季補習や土曜特別講座が実施できないなか、スタディサプリを利用することができた。 ○関東同窓会作成の動画を活用し、進路意識を高めることができた。 ○Teams等を活用して今まで以上に多くの進路情報を適時提供することができた。 □大学の合格実績については、年度末に確定する。 ▲コロナ感染予防の面からも、全員で受験を乗り越えようという意識を醸成することが、やや難しかった。	A Ⓑ C D
	②難関大学を志望する生徒を中心とした組織的・定期的な面談や、スタディサプリを効果的に活用した生徒の主体的な学習等を通して、生徒の向学心や進路意識を高める。	②最難関大学20人以上、難関大学50人以上、国公立大学230人以上の合格を目指す。	①土曜特別講座の代替策の一つとしてスタディサプリを利用し、生徒の主体的な学習を推進することができた。また到達度テストで苦手分野を特定し、習熟度をあげることができた。 ②難関大学志望者との面談や講座によって進路意識を高めることができた。	B		
生徒指導	①効果的な情報モラル教育や人権教育等を行い、生徒の人権意識を高めるとともに、昨年度改訂した本校いじめ防止対策の基本方針を適切に運用する。	①生徒の人権意識を高め、情報モラル違反やいじめにより生徒の安心・安全な学校生活が脅かされないようにする。	①「いじめに関するアンケート」「心のアンケート」「生徒実態調査」の結果を受けて、速やかに対応することができた。 ②スクールカウンセラーによるSOSの出し方教育を通して、悩みのある生徒へ	B	○情報モラル違反やいじめの重大事態は起こらなかった。 ▲心の悩みを抱える生徒の早期発見に務めたが、生徒支援は十分でなかった。 ▲「自分の命は自分で守る」た	A Ⓑ

	<p>②本校の地域的特性や生徒の特質に応じて、想定される危険を明確にして「危機管理マニュアル」の見直し・改善を図り、生徒の安全を確保する。</p>	<p>②「危機管理マニュアル」の見直しを図ることで、適切かつ具体的な対応策を、教職員や生徒に提示する。</p>	<p>働きかけができた。</p> <p>②関係機関一覧には業務時間を加え、設備点検や備蓄品維持管理の実施日一覧表には、定期点検予定日、点検実施日と点検担当者の記録欄を設けるなど、改善することができた。</p>	B	<p>めの、正しい避難訓練の在り方を早急に検討する必要がある。</p>	<p>C</p> <p>D</p>
--	---	---	--	---	-------------------------------------	-------------------

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月18日

12 来年度に向けての改善方策案

<p>1 学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症クラスターが発生していないことは、教員・生徒の予防意識が高く、感染防止が徹底されている結果である。 働き方改革を推進する中、勤務時間の制限などにより学習指導をはじめ進路や生徒指導に時間的制限による影響が出ないよう考えていただきたい。また、教職員間の連携や職場環境の充実に努めていただきたい。 <p>2 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットの効果的な活用を通して授業改善が図られていることは大きな成果である。 全体によくやっている。ICT機器の活用の成果、効果についての検証が必要である。 <p>3 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が高い志をもって、勉学に励むことができるような指導が必要である。 OBの話を伺う機会を作り、学びの動機付けとしてよい。 全体の底上げを行う指導の方策を検討されたい。 <p>4 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分の命は自分で守る」ために何をどうすればよいかについて取り組んでいただきたい。 進路の悩み等を含め、目標を見い出せずにいる生徒の心にケアを今後も取り組んでいただきたい。 自分を力量を謙遜する傾向の生徒に対して、高い志をもって勉学に励むことができるような指導が重要である。 	<p>1 学校経営</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スクールポリシーの3つのポリシーを全職員で共有し、教科活動・探究活動・課外活動においてその具現化のために、職員一同協力して取り組む。 ② ICT機器を使った業務の簡素化による教員の働き方改革および新型コロナウイルス感染症の感染防止等、安心安全な教育環境の整備を継続的に進める。 <p>2 学習指導</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一人一台のタブレット、GoNet、MetaMojiなどの整備されたICT環境を効果的に活用することで、主体的な学びを推進し、一層の学力向上を図る。 ② 令和4年度から本格実施される、観点別評価と総括評価について、明確な規準を作成し、教員・生徒・保護者で共通認識を持てるように努める。 <p>3 進路指導</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2022年度大学共通テスト等大学入試を分析し、求められる能力を伸ばすために工夫を凝らした授業、土曜特別講座、放課後補習、夏季補習を展開する。 ② 同窓会とも引き続き連携してICTを利用したキャリア教育の充実を図るとともに、難関大学を志望する生徒をはじめ、個々の生徒の進路希望も十分に把握し、効果的な講習会や進路面談の場を通して、生徒の向学心や進路意識を高める。 <p>4 生徒指導</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 18歳成人等を見すえた校則の改訂や内規の見直しの検討をする。 ② SOSの出し方教育など悩みを抱えた生徒への働きかけの工夫を図る。 ③ 生徒・職員の危機管理意識の高揚と学校安全（交通安全、生活安全、災害安全）教育の充実を図る。
---	--